

柏木教会月報

8月号

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

命のパンのしるし

ヨハネによる福音書六章一～五節

牧師 村松 恵美

イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。（一一節）

大勢の群衆がイエスの後を追ってきました。しかし、このとき彼らが求めていたものは、イエスのしるしだったのです。群衆は主イエスがなさつたしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である（一四節）」としました。人々は、かつてイスラエルの民をエジプトの奴隸状態から救い出し、荒れ野で水を出し、マンナを降らせてくれたモーセのような預言者が現れたのだと思つたのです。ローマの支配下に置かれ、苦しめられたいたユダヤ人の願つていたのは、ローマを打ち破り、イスラエルの国を建てることのできる、自分たちにとって都合のいいメシアでした。

しかし、主イエスは、ご自分のことを理解していない群衆を憐れんでくださいました。主イエスはフイリポ、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われました。こう言つたのは、フイリポを試みるためだとあります。フイリポは、大勢の群衆を見て、そして、自分たちの持つているものと比べて、とつさに計算し、無理だと決めつけました。自分の目の

前におられる主イエスに心を向けようとしないのです。アンデレも同じです。彼は、群衆の中に大麦のパン五つと、魚二匹を持つて少年を見つけましたが、「こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしよう」と決めつけました。何の役にも立たないと言うのです。

しかし、人間の目から見れば何の役にも立たないような小さなものであつても、主がそれを用いてくださいます。何の役にも立たないと思われるようなものから、主は奇跡を行つてくださいました。「感謝の祈りを唱えた」とあります。これは、聖餐「ユーカリスト」という言葉のもとになつた言葉です。わたしたちに最後の晚餐のことを想起させます。主イエスがパンをお与えになる、それは、主イエスご自身の体を与えてくださることです。目に見えるパンで肉体は一時的に満腹になつたとしても、そのパンはやがてなくなります。しかし、主イエスの体であるパンをいたくことによつて、わたしたちは決して飢えることがなくなるのです。

さらに、主は「少しも無駄にならないよう、残つたパンの屑を集めなさい」と言われました。「無駄にならないように」これは、「何も失われないよう」、「一人も滅びないで」という言葉です。わたしたちはそれぞれに、人間的な弱さを持っています。自分は何の役にも立たないと思つてしまふかもしれません。しかし、主のもとにあつて、すべての者が価値あるものとされるのです。主イエスにとつて、無用だと思うものは何一つありません。主は、少しも無駄にならないよう、一人も滅びないように、命のパンである御言葉を与えてくださるのであります。主はご自分の命さえも与えてくださるのであります。